シリーズ（その６）

分別のその先は？

分別収集された資源物はリサイクルされます

ご家庭で分別していただいた「ごみ」がどのようにリサイクルされているか、シリーズで紹介しています。

今月は　**蛍光管**　です。

蛍光管など水銀が使用されている有害廃棄物の収集、運搬、処分等は、法令で厳しく定められています。これは誤って水銀を大気中に放出し、人の健康や生活環境に被害を及ぼさないようにするためです。市では、使用済みの水銀製品の適正な処理に加え、製品全てを再資源化するため、リサイクル業者に処理を委託しています。

蛍光管の中には、水銀が蒸気として入っているので、保管・運搬時に蛍光管が破損しないよう、専門の業者がリサイクル業者へ運搬します。専用の機械の中で破砕され、洗浄乾燥、水銀分離などの工程を経て、ガラス、口金（アルミ）、蛍光体、水銀などに分別します。それぞれ再資源原料として、ガラスはガラス製品・グラスウール（断熱材）、アルミは金属原材料、蛍光体・水銀は再び蛍光管として生まれ変わります。

◀水銀蒸気を放出しないように、専用の機械で処理します。

蛍光管のその先は・・・

蛍光管などに再生します。

分別のポイント

- ＬＥＤタイプの電球は埋め立てごみ、点灯管（グロー球）は金属ごみです。リサイクルステーションに出さないようお願いします。
- 割れた蛍光管は中の見える袋に入れてからリサイクルステーションに出してください。

問い合わせ　環境政策課　☎ 23-3101

安来市加納美術館だより　☎36－0880

加納莞蕾（かんらい）　人と作品②「画家と戦争」

浜田市で小学校の先生を務めながら、絵画作品を制作していた加納莞蕾（本名　辰夫）。１９３７年（昭和12年）３月に本格的に絵描きとして独立しようと決意し、当時日本の統治下にあった朝鮮半島の京城（今の韓国ソウル）に渡ります。辰夫は京城で新しい芸術団体を創設するのに力を尽くすなど、意欲的に制作活動に取り組みました。

同年７月に盧溝橋事件が起こり、日中戦争が本格化。辰夫は、１９３８年（昭和13年）11月から約14カ月、朝鮮から中国の前線に陸軍の従軍画家として赴任します。戦線を移動しながら、スケッチや写真撮影などを行い、戦地を離れてから作戦記録画を制作していました。そのうちの１点のみ、現存が確認されています。

従軍当時、辰夫が持ち歩いていた手帳が残されています。その中には、行軍中の記録が細かい字でびっしりと記されており、厳しい前線の様子や従軍画家の仕事をうかがい知ることができる貴重な歴史資料です。

「ダリアとザクロ」
（1937 年　油彩）
©加納莞蕾
市加納美術館蔵

解　説　京城時代の作品。この頃からデフォルメすることなく対象をリアルに描く作風へと変化します。

リニューアル工事のため令和３年６月中旬まで休館中

＼お知らせ／

休館中も美術館から情報発信中しています。市加納美術館公式フェイスブックページ（右のＱＲコード）をご覧ください。